

第3章 琵琶湖環境の再生に向けて

琵琶湖は、豊かな生態系を支える源であり、人々はそのほとりに9千年以上前の縄文時代から生活を営んできました。現在では、近畿1,400万人の生存と経済的発展を支える重要な水資源となるなど、私たちに様々な恵みを与えています。

このすばらしい琵琶湖を健全な姿で次世代に引き継ぐため、今後も琵琶湖のもつ多面的な価値を守り育て、活用することを通じて健全な生態系と安全・安心な水環境の確保と、人の暮らしと琵琶湖の関わりの再生を目指しています。

第3章

琵琶湖環境の再生に向けて

健全な生態系と安全・安心な水環境

琵琶湖の豊かな自然環境としての価値、水源としての価値を守り育てることは、健全な生態系と安全・安心な水環境のため、とても重要です。

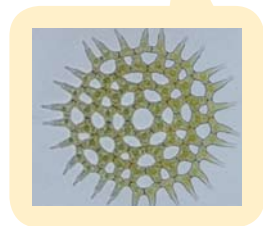
● 豊かな自然環境としての価値

＜環境政策課、琵琶湖環境科学研究センター＞

豊かな水量と広々とした空間をもち、様々な生物を育む琵琶湖が、長い歴史を持って自然界に存在することが大きな価値であり、県民の心のよりどころともなっています。

プランクトン(7種)

- ビワクンショウモ
- ビワクンショウモの1変種
- ビワクンショウモの1変種
- ビワツボカムリ
- ビワミジンコ
- スズケイソウ
- スズケイソウモドキ

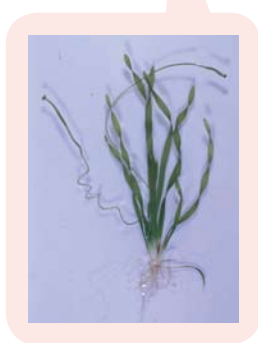


ビワクンショウモ

写真提供：
琵琶湖環境科学研究センター

水草(2種)

- ネジレモ
- サンネンモ



ネジレモ

写真提供：
琵琶湖環境科学研究センター

◆琵琶湖水系に生息する固有種

底生動物(37種)

- | | |
|------------|---------------|
| ビワオオズムシ | イカリビル ※1 |
| ビワカマカ | アナンデルヨコエビ |
| ナリタヨコエビ | ビワコシロカゲロウ |
| ビワコエグリトビケラ | カウムラナベトナムシ ※1 |
| ナガタニシ | ホンマキカワニナ |
| ビワコミズシタダミ | クロカワニナ |
| フトマキカワニナ | ナンゴウカワニナ |
| タテヒダカワニナ | モリカワニナ |
| ハベカワニナ | ナカセコカワニナ |
| イボカワニナ | オオウラカワニナ |
| ヤマトカワニナ | タテジワカワニナ |
| カゴメカワニナ | タケシマカワニナ |
| シライシカワニナ | カドヒラマキガイ |
| オウミガイ | イケチョウガイ |
| ヒロクチヒラマキガイ | オトコタテボシガイ |
| タテボシガイ | メンカラスガイ |
| ササノハガイ | オグラヌマガイ |
| マルドブガイ | カウムラメシジミ |
| セタシジミ | |

魚類(15種)

- ビワマス
- アブラヒガイ
- ビワヒガイ
- ホンモロコ
- スゴモロコ
- ワタカ
- ゲンゴロウブナ
- ニゴロブナ
- ビワコオオナマス
- イワトコナマス
- イサザ
- ビワヨシノボリ ※2
- ウツセミカジカ
- スジシマドジョウ
- 大型種 ※2
- スジシマドジョウ
- 小型種琵琶湖型 ※2



アナンデルヨコエビ

写真提供：
琵琶湖環境科学研究センター



ニゴロブナ

写真提供：
琵琶湖博物館

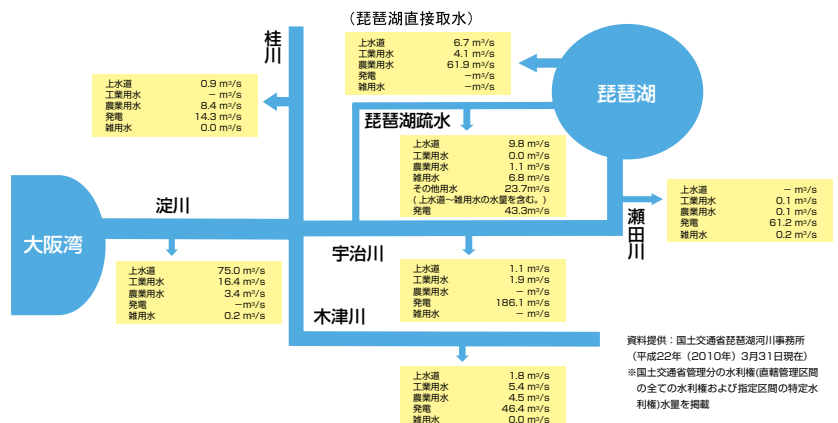
※1 既に絶滅したと考えられる固有種
 ※2 種の記載はまだ行われていないが、独立種として扱った
 出典：琵琶湖ハンドブック編集委員会(2007)「琵琶湖ハンドブック」琵琶湖の固有種(西野)

● 水源としての価値 <水政課>

琵琶湖は、近畿約1,400万人の水道水源であり、その他農業用水・工業用水などに利用されています。

琵琶湖疏水に関する情報交換会

本県と京都市は琵琶湖疏水に関する情報交換会を通じ、琵琶湖および琵琶湖疏水に関する事項について定期的に情報交換を行っています。



資料提供：国土交通省琵琶湖河川事務所
 (平成22年(2010年)3月31日現在)
 ※国土交通省管理分の水利権(流域管理区間の全ての水利権および指定区間の特定水利権)水量を掲載

人の暮らしと琵琶湖の関わり

日々の暮らしの中で、私たちは琵琶湖の水産業の場としての価値、観光資源としての価値、学術研究の場としての価値に触れ、その恩恵を受けています。これらは人の暮らしと琵琶湖の関わりを再認識させてくれる大切な琵琶湖の価値です。

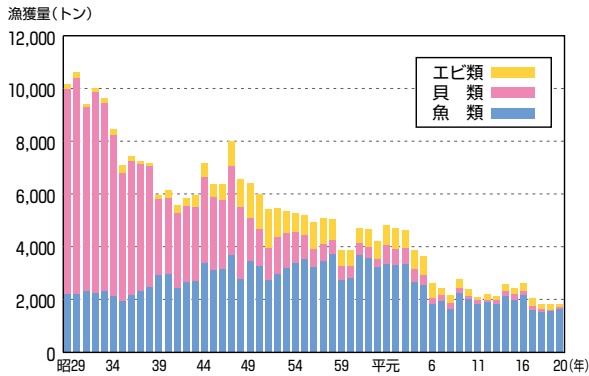
● 水産業の場としての価値

< 水産課 >

コアユ、ニゴロブナ、ホンモロコ、ビワマスなどの魚類をはじめ、セタシジミ、スジエビなど、平成20年(2008年)には1,822トンの水揚げがありました。

琵琶湖の魚介類は独特の漁法で獲られ、ふなずしなどのなれずしや湖魚の佃煮、あめのうお御飯などの伝統食として、滋賀県の産業や食文化を支えています。

◆ 類別漁獲量の推移



● 観光資源としての価値

< 観光交流局 >

20箇所を超える水浴場と年間約4,296万人の滋賀県への観光客(平成21年(2009年)速報値)を数えます。

● 学術研究の場としての価値

< 環境政策課 >

琵琶湖は生物・生態系、湖底遺跡などの学術研究の場となっており、県の試験研究機関だけでなく、大学なども研究機関を設置し、各種研究を行っています。



セタシジミ



ホンモロコ



琵琶湖のエリ



コアユ



湖魚の佃煮



ふなずし

● ラムサール条約湿地としての価値

< 自然環境保全課 >

琵琶湖は、平成5年(1993年)に「ラムサール条約(特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)」の登録湿地となりました。平成20年(2008年)には、県内最大の内湖であり、琵琶湖と長命寺川でつながっている西之湖が拡大登録されました。



沿岸市町と県が琵琶湖ラムサール条約連絡協議会を設立し、環境保全活動の支援、普及活動を行っています。

トピックス

マザーレイク21計画(琵琶湖総合保全整備計画)の改訂

< 琵琶湖再生課 >

健全な琵琶湖を次世代に引き継ぐための指針として、平成12年(2000年)3月に策定したマザーレイク21計画の第1期期間が、平成22年度(2010年度)で終了することから、琵琶湖総合保全学術委員会で検討が行われ、平成22年3月に「マザーレイク21計画(琵琶湖総合保全整備計画)第1期の評価と第2期以後の計画改定の提言」としてとりまとめられました。

提言では、取り組みの方向性として「暮らしと湖の関わり再生」と「琵琶湖流域生態系の保全・再生」との二本柱を置くことなどが示されています。

県はこの提言を受け、今年度、環境審議会において改訂の検討を進めています。

◆ マザーレイク21計画第2期でめざす方向性



(琵琶湖総合保全学術委員会の提言をもとに琵琶湖再生課が再構成)